

2016年 国際交流プログラム

1日目

ソウル空港に到着すると SNU の先生とボランティアの学生が温かく迎えて下さいました。夕食を空港で SNU の先生と学生と一緒に食べました。今年は SNU の学生が日本に来ることはなく、SNU の学生と初めて空港で会ったため、とても緊張していましたが、SNU の学生の1人に日本の文化が好きで日本語を流暢に話す学生がおり、話をしながら食事を楽しむことができました。SNU のバスで SNU のドミトリーまで移動しました。

SNU のドミトリーの入り口には、大分県立看護科学大学の学生を歓迎する幕が張っており、私たち学生はとても感動しました。



2日目

午前中にはウェルカムセレモニーをしていただき、その後大学内を案内していただきました。ウェルカムセレモニーでは自己紹介をし、学生だけでなく教授の方々に歓迎の言葉をかけていただきました。大学案内の際には、初めに SNU の講義室を案内していただきました。講義室は広くとても綺麗な場所でした。次に、博物館を見学しました。ソウル大学の歴史と看護の歴史についての資料が保管してありました。長い歴史の中で、少しずつ変化してきて現在の看護があると感じました。その後、シャインセンター (Shine Center:Simulation-based, Humanity-Integrated Nursing Education Center) と呼ばれる実習室を見学しました。各演習室は、室内の様子を外部からモニタリングできるようになっており、学生は、別室にいる教員から指示を受けながら演習を行います。また演習場面を録画でふりかえり、カンファレンスを行うこともあるそうです。看護技術だけでなく、患者とのコミュニケーションスキルも含めて、より実践的な学習ができる施設だと感じました。



午後からはソウル大学病院の見学をしました。病棟内だけでなく、ヘルスケアシステムカンナムセンターも見学しました。ヘルスケアシステムカンナムセンターでは、検査の情報を発

信していたり、ガンサバイバーに対するプログラムが作られているということを知りました。現在は家族ケアよりも患者に焦点が当てられてケアが考えられていました。



3 日目

午前中はナーシングホームを訪問しました。私たちが訪問した **Green Hill Nursing Home** は、日本の施設を何度も訪問されて日本の施設を参考にして作られていたため、施設の作りは日本の施設と似ているところが多いなと感じました。しかし、私たちが訪問したナーシングホームは日光がたくさん入るような設計がされており、施設の周辺には多くのバラが植えてありました。日本語を話せる施設の利用者の方に話を伺ったところ、「この施設はとても良くしてくれてうれしい」と話していらっしゃいました。施設長さんは看護師としてのプライドを持っておられ、私たちも向上心を持って頑張っていきたいと思いました。

午後は、アサン病院を訪れました。アサン病院は約 2700 床あります。看護師教育も充実しており、新人研修だけでなく、海外で勉強することができる機会もあるということを知りました。看護師になってからも自分の能力を高めていくことができる病院であると感じました。ACU も見学しました。ここには緊急医師がおり、室内には常時陰圧がかけられていました。手術後は ICU に入りますが、ACU には比較的重症度が高い救急患者さんが入っていました。



4 日目

午前中は韓国の文化を体験しました。韓国の茶道の際にいただくお菓子を初めに作り、その後、チマチョゴリを着て茶道を体験しました。生花のお茶もはじめていただきました。これまで韓国の文化を体験する機会はなかったため、良い経験となりました。

午後からは、ウェルフェアパーティーをしていただきました。数名の学生が今回の国際交流プログラムの感想を発表しました。SNUの教授の方々やボランティアで通訳をしてくださった学生、事前の準備から様々な手配をしてくださったティーチングアシスタントの方のおかげでたくさんのお話を学ぶことができましたと感じました。今回の国際交流は短い期間でしたが、韓国の医療や看護についてたくさん学ぶことができたため、今回学んだことをこれから活かしていきたいと思えます。

